

平成26（2014）年度入学者

専門教育科目

科目名	看護教育学	科目ナンバリング	K04B14028
担当者氏名	新田 幸子		
授業方法	講義	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ◎ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力		

《授業の概要》

「看護教育学とは看護学各領域の教育に共通して普遍的に存在する要素を研究対象として、看護学生を含む看護職者個々の発達の支援を通して看護の対象に質の高い看護を提供することを旨とする学問である」この定義を通して、看護教育学という学問がどのようなものか、「看護教育学」の教育内容は何か、看護教育学研究とは何をどのように研究することなのかを模索していきます。

《テキスト》

資料配布

《参考図書》

看護教育学 第5版 杉森みどり 舟島なをみ

《授業の到達目標》

1. 看護教育の目的・内容・方法など基本理論を学ぶ。
2. 看護師の教育課程について学び、各課程の特徴を理解し、臨地実習の位置づけを説明できる。
3. 教育と看護学教育の関連を知り、教授＝学習過程を理解する。

《授業時間外学習》

看護における教育的かかわりとは何かを考え、臨地実習でのコミュニケーション能力について場を振り返り考えておくこと。

《成績評価の方法》

授業への出席30% プレゼンテーション20% 筆記試験50%
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

臨地実習での体験をフィードバックし、授業に主体的に参加してください。
90分×7.5回の授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護教育学とは何か	看護教育と看護教育学 看護学教育と看護教育学 看護師養成教育と看護教育学 看護教育学は看護学なのか 看護教育行政と看護教育学
2	看護教育制度	看護師養成教育の歴史の変遷 看護教育制度を支える法および関連法規 看護教育制度と学位
3	看護学教育課程	看護教育目的論の位置づけ 教育課程（カリキュラム）とは 教育目的・目標の設定 教育内容（講義・演習・実習）
4	教育方法の理論 教育的指導論	教育的指導とは ①教育的管理 ②教育的教授 ③教育的訓練
5	教育と看護	看護における教育的かかわり 学ぶ場の特性：看護学臨地実習 臨地実習における教育体験・被教育体験を振り返る
6	教育と看護	コミュニケーション能力：自分の意見を上手く発言できなかった場面 患者の個別状況に応じたコミュニケーションを上手く展開できなかった場面
7	コミュニケーションを高める方法論	グループ学習
8	プレゼンテーション	発表
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門教育科目 専門実践科目 IV群（基礎看護学）》

科目名	看護倫理	科目ナンバリング	K04B14029
担当者氏名	白神 佐知子		
授業方法	講義	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ◎ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力 		

《授業の概要》

看護師は生命、生活を預かる専門職であり、看護倫理は看護実践の場において常に存在しています。本授業では、人間や看護の本質を問うところから看護倫理を考え、医療や看護場面における倫理的問題やジレンマの解決方法を考えていきます。

《テキスト》

- ・系統看護学講座 別巻「看護倫理」医学書院
- ・「新版 看護者の基本的責務」日本看護協会

《参考図書》

- ・「ケアの質を高める看護倫理」岡崎寿美子著、医歯薬出版
- ・「看護学生のための倫理学」高谷修著、KINPODO
- ・「事例検討から学ぶ看護実践のための倫理と責任」宮脇美保子著、中央法規

《授業の到達目標》

- (1) 看護倫理を学ぶ意義がわかる。
- (2) 看護実践上の倫理概念が説明できる。
- (3) 看護実践と看護倫理の関係性がわかる。
- (4) 現場で起こりやすい倫理問題を分析し、具体的問題解決方法が理解できる。
- (5) 事例検討を通して、自己の倫理的感受性を高める。

《授業時間外学習》

今回の授業の予習と授業後の復習をしておくこと。
参考図書に目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

レポート70%、受講態度、グループワークの参加度30%の計100点満点で評価する。
*レポートはコメントを付して返却する。

《備考》

看護師を目指す学生にとって基本的科目です。必ず出席をすること。
90分×7.5回の授業時間となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護倫理の基礎知識	看護倫理の基礎と歴史的背景から見た看護実践における倫理について考える。また患者の人権と権利、看護実践と倫理の関係を学ぶ。
2	生命倫理と看護	生命倫理が誕生した経緯と4原則を学ぶ。また生命倫理に関する問題を取り上げて看護倫理や自己の価値観を考える。
3	倫理原則と倫理的概念	倫理的意思決定を導く倫理原則を学び、具体例により価値の対立を考える。また看護実践に重要な倫理的概念を理解し、倫理的判断に活かす。
4	倫理綱領と専門職	倫理綱領を理解し、専門職者としての倫理的責任が説明できる。
5	倫理的問題へのアプローチ	看護実践における倫理的問題の特徴を理解し、臨床で直面する問題に対してのアプローチの方法が説明できる。
6	医療、看護場面における倫理問題	倫理問題に関する事例や実習中に遭遇した倫理問題、ジレンマについて討議し、倫理的問題や対処方法はなにがあるかについてグループワークをする。
7	医療、看護場面における倫理問題	倫理問題に関する事例や実習中に遭遇した倫理問題、対処方法についてのグループワークの発表会
8	まとめ	看護倫理に関する知識の確認と倫理問題についての臨床事例やDVDなどを通して討議を行う。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

科目名	在宅看護実習		科目ナンバリング	K07B14051
担当者氏名	新田 幸子、高見 千恵、東 久子			
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 ◎ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力 			

《授業の概要》

健康課題や障がいを持ちながら地域で生活する療養者とその家族を理解し、対象の特性に応じた訪問看護の実際を学び、看護の果たす役割を認識し、行動できる能力を養う。在宅ケア全般を支える仕組み、保健・医療・福祉における連携、チームケア体制について総合的に理解する。在宅看護の意義と役割を理解し、在宅看護に必要な基本的な知識・技術・態度を学ぶ。

《テキスト》

系統看護学講座 統合分野「在宅看護論」2014（医学書院）

《参考図書》

ナーシング・グラフィカ在宅看護論
「地域療養を支えるケア」2015（メディカ出版）

《授業の到達目標》

健康課題や障がいを持ちながら在宅で生活する療養者とその家族の日常生活を理解し、基本的な援助方法の実際を理解する。在宅における要介護者とその家族を支援するための介護保険法や地域サービスの仕組みを理解する。身体障がいをもつ利用者が医療的リハビリ終了後、社会復帰に向けてどのような目的で自立訓練と向き合っているかを知り看護の果たす役割を理解する。

《授業時間外学習》

現在、居住している地域の社会資源について、役所等に出向き、市民に通知している情報をパンフレットを収集するなどして、情報を集めておく。
在宅療養者や介護者と取り巻く問題について関心を寄せ、メディアや生活体験の中から情報が得ておく。

《成績評価の方法》

実習前学習課題の提出（10%）
在宅看護実習の評価表に基づく評価（70%）
実習態度（20%）
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
2	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
3	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
4	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
5	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
6	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
7	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
8	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
9	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
10	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
11	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
12	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
13	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
14	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
15	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。

科目名	災害看護学（災害保健を含む）		科目ナンバリング	K07B14056
担当者氏名	大植 崇			
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ◎ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力			

《授業の概要》

災害発生から支援ができる看護の基礎的能力を習得すると同時に、災害という異常事態のなかで、災害時の特徴的健康課題や看護ニーズ、看護職の役割について理解する。

《テキスト》

看護の統合と実践② 災害看護 辺見弘、小井戸雄一、山西文子：メチカルフレンド社

《参考図書》

小原真理子ら 『災害看護-心得ておきたい基本的な知識-』 南山堂

《授業の到達目標》

1. 災害および災害看護に関する基本的知識を理解できる。
2. 災害が人々の生活や健康に及ぼす影響について理解できる。
3. 災害サイクルに応じた看護活動を理解できる。
4. 災害時における看護の実際を学び、看護が果たす役割を理解できる。

《授業時間外学習》

講義で配布されたプリントに関して復習をしておくこと。災害に関するメディア・新聞等の情報収集をしておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、提出物（20%）、グループワークと発表（20%）で評価をする。
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 災害看護とは	災害の種類、災害サイクル 災害時の制度（法、救援体制、救助活動）国連防災世界会議 災害看護とは
2	災害サイクルと看護	災害サイクル、災害医療活動の基本原則（CSCATTT） 災害時に発生する疾患 トリアージ 災害時のこころのケア 災害における感染症対策
3	災害看護の実際	人と防災未来センターで、阪神・淡路大震災の実際を学び、災害時の看護師の役割を考える。
4	災害看護の実際	人と防災未来センターで、阪神・淡路大震災の実際を学び、災害時の看護師の役割を考える。
5	災害の備えと看護	グループワーク 災害対策マニュアルの作成（個人・地域の備え、ボランティア、高齢者・子ども・妊産婦・がん・慢性疾患患者の看護、生活の工夫など）
6	災害の備えと看護	グループワーク 災害対策マニュアルの作成（個人・地域の備え、ボランティア、高齢者・子ども・妊産婦・がん・慢性疾患患者の看護、生活の工夫など）
7	災害の備えと看護	発表とまとめ
8	災害の備えと看護	発表とまとめ
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門教育科目 統合科目 VIII群（看護の統合と実践）》

科目名	看護研究Ⅱ（応用編）		科目ナンバリング	K08B14059
担当者氏名	全教員			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				4年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ◎ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力 			

《授業の概要》

看護研究のベースとなる看護学の基礎から応用まで実践的な知識を定着させるため、研究学習会を設定する。学習会は看護学の総まとめとしての習熟状況を適宜評価する。さらに看護研究Ⅰの学習を通じて習得した基礎的理解を深化させ、科学的な理解を深める。健康科学や看護領域での疑問や未解決部分に対して研究課題を設定する。

《テキスト》

看護研究Ⅰで使用したテキスト
黒田裕子：「黒田裕子の 看護研究 step by step」 第4版 医学書院

《参考図書》

各担当教員が必要に応じて提示する。

《授業の到達目標》

- ・看護教育の総まとめとして基礎的な看護学を理解する。
- ・看護における研究の意義・必要性を理解する。
- ・関連する文献を検討し、研究テーマを明確化する。
- ・研究テーマを科学的に探求するための方法を検討する。
- ・研究を実施するにあたって必要な倫理的配慮を行う。
- ・規定の執筆要領に従い、計画書を作成する。

《授業時間外学習》

基礎的な看護学の理解を深め、研究課題に関する文献・図書・資料を積極的に読み、研究計画書作成に活かす。

《成績評価の方法》

看護領域の知識をベースにした看護研究への応用力について評価する。積極的・主体的取り組みなどの研究的態度に踏まえ、倫理的考察や研究計画書の内容を評価基準に基づいて評価する。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

研究に必要な看護領域での知識や技能を深め、自ら選択した研究課題に探究心を持ち、主体的・計画的に研究を進めていくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護研究Ⅱオリエンテーション	研究Ⅱの進め方と研究計画書と論文作成にあたっての留意点を説明する。
2	基礎看護（応用）	基礎医学の基礎的な知識を前提に応用課題を学習会を通して習熟する。
3	基礎看護（応用）	基礎看護学の基礎的な知識を前提に応用課題を学習会を通して習熟する。
4	成人看護（応用）	成人看護学の基礎的な知識を前提に応用課題を学習会を通して習熟する。
5	老年看護（応用）	老年看護学の基礎的な知識を前提に応用課題を学習会を通して習熟する。
6	小児看護（応用）	小児看護学の基礎的な知識を前提に応用課題を学習会を通して習熟する。
7	母性看護（応用）	母性看護学の基礎的な知識を前提に応用課題を学習会を通して習熟する。
8	精神看護（応用）	精神看護学の基礎的な知識を前提に応用課題を学習会を通して習熟する。
9	在宅看護（応用）	在宅看護学の基礎的な知識を前提に応用課題を学習会を通して習熟する。
10	看護の統合と実践（応用）	看護の統合と実践の基礎的な知識を前提に応用課題を学習会を通して習熟する。
11	健康支援と社会保障（応用）	健康支援と社会保障についての基礎的な知識を前提に応用課題を学習会を通して習熟する。
12	研究計画書の作成①	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究計画書を進める。
13	研究計画書の作成②	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究計画書を進める。
14	研究計画書の作成③	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究を進める。
15	研究計画書の作成④	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究計画書を進める。

科目名	看護研究Ⅱ（応用編）		科目ナンバリング	K08B14059
担当者氏名	全教員			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ◎ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力			

《授業の概要》

看護研究の立体的な知識と実践の定着を図るため、研究や論文構成、統計的な理解を深め総合的な看護学習をベースに各教員の指導のもと研究の実践や論文を作成を行い、看護研究論文を完成させる。

《テキスト》

看護研究Ⅰで使用したテキスト
 黒田裕子：[黒田裕子の看護研究 step by step] 第4版 医学書院

《参考図書》

各担当教員が適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ・論理的・科学的思考を修得する。
- ・看護研究を通して問題解決能力を養う。
- ・倫理的配慮の重要性を修得する。
- ・看護研究を論文としてまとめる。

《授業時間外学習》

看護学の内容を整理し、看護臨床の実践の対応できる看護知識を定着させる。看護研究Ⅱでの研究課題に関する文献・図書・資料を積極的に読み、論文作成に活かす。

《成績評価の方法》

看護実践での知識定着を確実に言い、看護学の総まとめを中心に習熟状況を評価する。論文作成にあたり、評価基準に基づいて積極的・主体的取り組みなどの研究的態度を踏まえて評価する。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

看護学の総仕上げとして、主体的・計画的に取り組むとともに、積極的に看護研究を仕上げていただきたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究の実践①	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら看護研究を進める。
2	研究の実践②	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら看護研究を進める。
3	研究の実践③	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら看護研究を進める。
4	研究の実践④	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら看護研究を進める。
5	研究の実践⑤	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら看護研究を進める。
6	研究の実践⑥	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら看護研究を進める。
7	研究の実践⑦	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら看護研究を進める。
8	研究の実践⑧	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら看護研究を進める。
9	論文作成①	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究論文作成を進める。
10	論文作成②	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究論文作成を進める。
11	論文作成③	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究論文作成を進める。
12	論文作成④	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究論文作成を進める。
13	論文作成⑤	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究論文作成を進める。
14	研究論文の仕上げ①	論文内容の詳細について研究担当指導教員と検討し、看護研究論文を完成させる。
15	研究論文の仕上げ①	論文内容の詳細について研究担当指導教員と検討し、看護研究論文を完成させる。

《専門教育科目 関連科目 IX群（保健師関連）》

科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	K09D24067	
担当者氏名	福川 京子、石井 久仁子				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 <input type="radio"/> 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 <input checked="" type="radio"/> 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 <input type="radio"/> 4-2 安全なケア環境を提供する能力 <input type="radio"/> 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

行政機関等において、健康課題の解決・改善をめざして展開される保健医療福祉の推進と、公衆衛生看護学実習Ⅱの実際を学修する。

また、人々との関わりをとおして人間として成長し、対象の生活を基盤とする公衆衛生看護学実習Ⅱの視座を培う。

《テキスト》

別途指示する。

《参考図書》

別途指示する。

《授業の到達目標》

- ・地域の健康課題の明確化と計画・評価の必要性を理解できる。
- ・地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動を理解できる。
- ・地域の健康危機管理について知識としてわかる。
- ・地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化について知識としてわかる。

《授業時間外学習》

指定された課題を期限までに提出できるよう学習してください。

《成績評価の方法》

要項の評価表に基づく評価 90%

実習態度 10%

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

実習施設内外で、多くの関係者や住民方々から学ばせていただきます。社会人に必要な真摯な態度で実習に臨んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
2	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
3	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
4	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
5	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
6	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
7	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
8	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
9	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
10	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
11	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
12	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
13	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
14	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
15	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照

科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	K09D24067	
担当者氏名	福川 京子、石井 久仁子				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 <input type="radio"/> 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 <input checked="" type="radio"/> 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 <input type="radio"/> 4-2 安全なケア環境を提供する能力 <input type="radio"/> 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

行政機関等において、健康課題の解決・改善をめざして展開される保健医療福祉の推進と、公衆衛生看護活動の実際を学修する。

また、人々との関わりをとおして人間として成長し、対象の生活を基盤とする公衆衛生看護活動の視座を培う。

《テキスト》

別途指示する。

《参考図書》

別途指示する。

《授業の到達目標》

- ・地域の健康課題の明確化と計画・評価の必要性を理解できる。
- ・地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動を理解できる。
- ・地域の健康危機管理について知識としてわかる。
- ・地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化について知識としてわかる。

《授業時間外学習》

指定された課題を期限までに提出できるよう学習すること。

《成績評価の方法》

要項の評価表に基づく評価 90%

実習態度 10%

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

実習施設内外で、多くの関係者や住民方々から学ばせていただくため、社会人に必要な真摯な態度で実習に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
2	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
3	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
4	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
5	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
6	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
7	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
8	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
9	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
10	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
11	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
12	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
13	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
14	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照
15	実習	公衆衛生看護学実習Ⅱ要項参照

《専門教育科目 関連科目 IX群（保健師関連）》

科目名	公衆衛生看護学特論		科目ナンバリング	K09X24068
担当者氏名	福川 京子、石井 久仁子			
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力		

《授業の概要》

公衆衛生看護学の基礎知識の包括的な理解を深め、保健師としての専門的自律の基盤を培う。

《テキスト》

公衆衛生がみえる メディックメディア

《参考図書》

保健師課程履修関連のテキスト等

《授業の到達目標》

- ・公衆衛生看護に関する基礎知識を統合する。
- ・公衆衛生看護における発展的思考を身につける。

《授業時間外学習》

保健師課程履修関連の総復習に努めること。

《成績評価の方法》

筆記試験 100%
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

保健師国家試験対策と関連する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生看護学概論・管理	公衆衛生看護の基礎的な考え方と管理業務について復習する。
2	疫学・保健統計	疫学・保健統計について復習する。
3	対象別公衆衛生看護活動	母子保健、成人・高齢者保健、精神保健、難病対策、感染症対策について復習する。
4	公衆衛生看護活動技術	保健指導および活動技術の基本を復習する。
5	保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政の法制度や機構等について復習する。
6	産業保健・学校保健	産業保健・学校保健について復習する。
7	健康危機管理・災害保健	健康危機管理・災害保健について復習する。
8	まとめ、試験	まとめ、筆記試験
9	以下余白	以下余白
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（養護教諭）		科目ナンバリング	KTY014002
担当者氏名	柴田 順子			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	履修カルテ参照			
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

養護教諭は専門職であり学校保健活動の推進に当たって中核的な役割を果たしている。小学校・中学校・高等学校における養護教諭の職務の特質を生かした保健室経営の実際、保健教育の実際、健康相談等について学び、養護教諭に必要な専門的な知識・技能を習得することを目的とする。

《授業の到達目標》

- 校種別保健教育の実際について理解できる。
- 校種別保健室経営の実際について理解できる。
- 校内外連携の実際と健康相談について理解できる。

《成績評価の方法》

演習等受講態度40%、各段階における個別レポート40%
課題レポート20%
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

『改訂 養護実習ハンドブック』大谷尚子編著 東山書房 2015
『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編 第一法規2014
『教職に関する科目の履修したテキスト』
『学校保健で履修したテキスト』

《授業時間外学習》

既習科目の復習をしておく。

《備考》

養護履修生として、目的意識を持ち、授業に主体的に参加する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 保健教育①	教職実践演習の目的等を知る。 保健指導、保健学習の実際について発表し学びを深める。
2	保健教育②	保健指導、保健学習の実際について発表し学びを深める。
3	保健教育③	シェアリング、保健教育のまとめ
4	保健室経営の実際①	小学校における保健室経営の実際について理解する。（講義・演習）
5	保健室経営の実際②	小学校における保健室経営の実際について理解する。（講義・演習）
6	保健室経営の実際③	高等学校における保健室経営の実際について理解する。（講義・演習）
7	保健室経営の実際④	ソリューションフォーカスアプローチを意識した健康相談の実際について理解する。（演習）
8	保健室経営の実際⑤	中学校における保健室経営について理解する。（講義・演習）
9	保健室経営の実際⑥	中学校における校内外連携・健康相談の実際について理解する。（講義・演習） シェアリング
10	特別支援教育①	学校における特別支援教育の実際について理解する。（講義・演習）
11	特別支援教育②	特別支援学校における保健室経営の実際について理解する。（講義・演習） シェアリング
12	養護教諭の専門性①	養護教諭に必要な専門性について理解する。（講義・演習）
13	養護教諭の専門性②	（演習）ライフスキル教育
14	養護教諭の専門性③	教職実践演習での学びを発表する。
15	まとめ	教職実践演習のまとめをする。

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）		科目ナンバリング	KTY014001	
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習では、学校における養護教諭の役割と意義について実習を通して理解する。また児童生徒や教職員とのかかわりを通して教員としての学びを深める。事前指導では、養護教諭の専門的知識・技術、教員としての知識等を再確認する。事後指導では、実習の成果を発表することで他校での学びを共有し養護教諭を目指す学生としての自覚を高める。

《テキスト》

『改訂 養護実習ハンドブック』 大谷尚子編著 東山書房 2015
『児童生徒等の健康診断マニュアル』（財）日本学校保健会2015

《参考図書》

『新訂版学校保健実務必携』 戸田芳雄編、第一法規 2014
『小学校学習指導要領解説体育編』 文部科学省 2008
『中学校学習指導要領解説保健体育編 文部科学省 2008

《授業の到達目標》

養護実習要項の実習目標を本講義の目標とする。
事前指導では養護の専門的知識・技術等について理解する。
養護実習では教育現場での実践を通して目標達成を目指す。
事後指導では自らの振り返りを行うとともに学びを共有する。

《授業時間外学習》

養護実習に向けて、既習科目のテキストや参考図書を参考にし
て知識・技術の確認と定着を行う。

《成績評価の方法》

受講態度・事前学習資料の提出20%、養護実習報告会20%、
実習校評価、養護実習要項の記録等60%
分らないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

養護教諭1種免許取得の意志を明確にし、主体的に実習に臨む

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 事前指導①	養護実習要項の内容について理解する。
2	事前指導②	養護実習事前準備（演習） 保健管理の実際について説明できる。
3	事前指導③	養護実習事前準備（演習） 学級活動（保健指導）指導略案を作成する。
4	事前指導④	養護実習事前準備（演習） 実習校のほけんだより案を作成する。
5	養護実習①	養護実習（一般校）
6	養護実習②	養護実習（一般校）
7	養護実習③	養護実習（一般校）
8	養護実習④	養護実習（一般校）
9	養護実習⑤	養護実習（特別支援学校または特別支援学級）
10	事後指導①	養護実習のまとめを行い、教職実践演習で発表する。
11	事後指導②	養護実習のまとめを行い、養護実習報告会で発表する。
12	事後指導③	養護実習のまとめを行い、3回生との交流会で発表する。
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）		科目ナンバリング	KTY014001	
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年（Ⅱ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習では、学校における養護教諭の役割と意義について実習を通して理解する。また児童生徒や教職員とのかかわりを通して教員としての学びを深める。事前指導では、養護教諭の専門的知識・技術、教員としての知識等を再確認する。事後指導では、実習の成果を発表することで他校での学びを共有し養護教諭を目指す学生としての自覚を高める。

《テキスト》

『改訂 養護実習ハンドブック』大谷尚子編著 東山書房 2015
『児童生徒等の健康診断マニュアル』（財）日本学校保健会2015

《参考図書》

『新訂版学校保健実務必携』戸田芳雄編、第一法規 2014
『小学校学習指導要領解説体育編』文部科学省 2008
『中学校学習指導要領解説保健体育編』文部科学省 2008

《授業の到達目標》

養護実習要項の実習目標を本講義の目標とする。
事前指導では養護の専門的知識・技術等について理解する。
養護実習では教育現場での実践を通して目標達成を目指す。
事後指導では自らの振り返りを行うとともに学びを共有する。

《授業時間外学習》

養護実習に向けて、既習科目のテキストや参考図書を参考にし
て知識・技術の確認と定着を行う。

《成績評価の方法》

受講態度・事前学習資料の提出20%、養護実習報告会20%、
実習校評価、養護実習要項の記録等60%
分らないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

養護教諭一種免許取得の意志を明確にし、主体的に実習に臨む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 事前指導①	養護実習要項の内容について理解する。
2	事前指導②	養護実習事前準備（演習） 保健管理の実際について説明できる。
3	事前指導③	養護実習事前準備（演習） 学級活動（保健指導）指導略案を作成する。
4	事前指導④	養護実習事前指導（演習） 実習校のほけんだより案を作成する。
5	養護実習①	養護実習（一般校）
6	養護実習②	養護実習（一般校）
7	養護実習③	養護実習（一般校）
8	養護実習④	養護実習（一般校）
9	養護実習⑤	養護実習（特別支援学校または特別支援学級）
10	事後指導①	養護実習のまとめを行い、教職実践演習で発表する。
11	事後指導②	養護実習のまとめを行い、養護実習報告会で発表する。
12	事後指導③	養護実習のまとめを行い、3年生との交流会で発表する。
13	-	-
14	-	-
15	-	-